研究所だより

第３７８号
２０１７年　９月　８日
発行：土佐清水市教育研究所
ＴＥＬ　８２－３０１５

“とんぼのめがねは　水いろめがね
青いおそらを　とんだから　とんだから
とんぼのめがねは　赤いろめがね
夕焼け雲を　とんだから　とんだから”
『とんぼのめがね』　童謡　（１９４９年）

☆２学期が始まりました！☆

猛暑続きで平均気温も高かった今年の夏。８月６日には迷走のノロノロ長寿台風５号の北上、結果甚大な被害をもたらしました。また、地震も国内外を問わず発生しています。３日（日）には土佐清水市一斉避難訓練・総合防災訓練が行われました。各校におきましては、「自助・共助・公助」「自分の身は自分が守る」を合い言葉に災害に備えての準備・訓練を徹底していきましょう。

４０日余りの家庭主体の生活から学校生活へ戻ってきた子ども達にとっては、学校や学級で夏休み前にできていたことができなくなったり、築き上げたことが崩れたりしていることがあります。再確認しながら様々な取り組みを始めましょう。

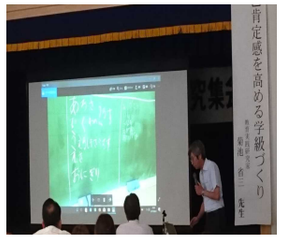
みんなで気持ちよく集団生活を送るためのルールやマナーの意識が薄れ、夏休み前に身についていたものも忘れていることが多いでしょう。そこでまず取り組みたいのは、人と関わるときや集団で生活するときのルールやマナーの再確認です。

９月は、運動会・体育祭、修学旅行があります。練習や各係活動、修学旅行の取組等を通して、学級での存在感を植えつけ、互いに認め合う雰囲気づくりを作ることで、集団を高め合うことができます。特に行事が多い２学期は、学級集団を高める絶好の機会です。菊池先生の模擬授業・講演を思い出しながら、行事で集団を高め、行事が集団を高められるように取り組んでください。学級担任の腕の見せ所です。しかし、いろいろな場面で発生する様々な問題に対しては、学級担任一人で対応するのではなく、学校組織として取り組むことが基本です。

＜第６７次土佐清水市教育研究集会・一日教研（振り返り）＞

８月２２日（火）の一日教研ご苦労様でした。午前中は、菊池　省三 先生（教育実践研究家）による模擬授業の参観と、『自己肯定感を高める学級集団づくり』と題しての講演をお聞きしました。午後は、各部会研修で先生方の自主的、主体的な一日教研になったことと思います。先生方から寄せられた感想には、模擬授業について、自分自身の取組の振り返り、これからのやる気など多く記述されていました。ありがとうございまいした。模擬授業・講演の感想の一部を紹介します。

〔菊池先生による模擬授業～溢れるほめ言葉シャワー～〕



〔講演〕

○ほめるということは学級作りをする上で、私自身意識はしていましたが、ほめる内容が同じようなことになってしまったり「すごい」という具体的ではないほめ方になってしまったりしていました。けれど、今日菊池先生の話を聞いて、もっと広い視野で子どもたちを見ることが大切だと思いました。そして、それと同時に日々の自分が丸付けをしながら子どもの話を聞いてしまっていることがあることを反省しました。子ども達の自己肯定感を育てるために、そしてそんな学級の雰囲気を作っていくために、まずは私自身が非言　語の部分を大切にしたコミュニケーションを２学期から心がけていきたいです。

○自己肯定感を高める上で、ほめることは不可欠だと思います。でも、そのほめ言葉をシャワーのように浴びせるのはなかなか難しく普段できてないなと思いました。どこをほめるか、こちらの観察力、語彙力が問われている。磨かなければならないということを強く感じたことでした。「教師の見る目が勝負になる」という言葉が心に残りました。ほめることが日常化するように、まずは子どものことをよく見て、常にほめることを意識していけるように努力したいです。

○「主体的、対話的な深い学び」の実現について講話やＤＶＤを通して具体的な指導の方向性を研修することができました。
２学期、児童の自己肯定感を高める学級づくりをめざしていきたいと思います。ありがとうございました。

○子ども一人ひとりの個に応じた授業づくりが大切なんだということがわかりました。また、対話的になれば、それが主体的になり、また、それが深い学びへとつながるということを聞いて、確かにその通りかなと思いました。スピーチをするときも１０対０になるのではなく、話す人と聞く人の関係が５対５になるということが大事だということもわかりました。確かに自分が話しているときに黙って、何もせず聞いてもらっても、自分の思いが伝わっているのかどうかっていうのが、わからないと思います。それなら相づちをうってくれたり、何かをささやきながら聞いてくれている方がいいなと思いました。ありがとうございました。

○言葉によって、ほめる（ボイスシャワー）ことは、難しいところがありますね。ほめるよりも本当にしかることの方が多いかもしれません。子ども達のことを認めて、ほめることを増やしていきたいと思います。

○対話ができるということは、主体的になり、深い学びができると思いました。対話する場を設定し、対話させる中で、子ども達一人ひとりの良さを見いだし、ほめていこうと思いました。

○年齢５０歳になり、指導方法や生徒への声かけですごく考えるようになってきた。それは「ほめる」「認める」ということを意識するようになってきた。頭ごなしに言っても生徒には伝わりにくい。自分の言ったことが短期間ではなく長期間心に残るくらいの声かけをしていくためにも話をじっくり聞いてあげることの大切さをこれからも大事にしていきたい。

＜外国語教育コア・エリア実践研究指定事業＞

１．外国語教育コア・エリア実践研究指定事業連絡協議会

８月４日「地域及び学校全体で進める外国語教育について、講師を招聘して学ぶとともに、各校の実践を交流し、課題解決に向けて協議することで、各校、各地域の取組の改善及び充実を図る。」ことを目的に連絡協議会が開催されました。

前半は、「地域全体・学校全体で進める外国語教育」と題して酒井　英樹 教授（信州大学学術研究院）による講話と後半は教諭「外国語教育の授業改善・充実を図るために」、管理職「校内体制・小中連携の在り方について」、教育委員会「市町村教育員会の役割・支援について」の３つのグループに別れ、各テーマに沿ってグループ協議を行いました。グループ別協議の後半には、市町村別ミニ推進会議（管理職グループと市町村教育員会グループ合同）を開き、グループ協議の内容の報告とこれからの方向性や２学期からの取り組むべきことについて確認しました。推進会議では、平成３０年度からの移行期間における取組として、週１コマから２コマへの授業時間数増について、純増の１時間をどこで確保するのかということが、かねてより議論されていました。この協議でも「授業時数の確保や純増１コマ分のモジュール（短時間学習）での対応のメリット・デメリットについて早急に調査する必要がある」などの意見が出されました。

２．第２回外国語教育コア・エリア推進会議

８月２８日高知工科大学　長﨑 政浩 教授を招聘して、第２回外国語教育コア・エリア推進会議を開催しました。

前半は各校の外国語授業力チェックシートの分析と第２回意識調査の分析をし、それらを基に推進プランの中間検証を行いました。高知県教育員会　松岡 佐記 指導主事からは、「移行期間における外国語教育」について、特に「時数・考えられる選択肢」として下記の

【案1】年間授業日数を増加させて時間割を編成
【案2】週当たりの授業時数を増加させて時間割を編成
【案3】年間授業日数の増と週当たりの授業時数の増を組み合わせて
　　時間割を編成

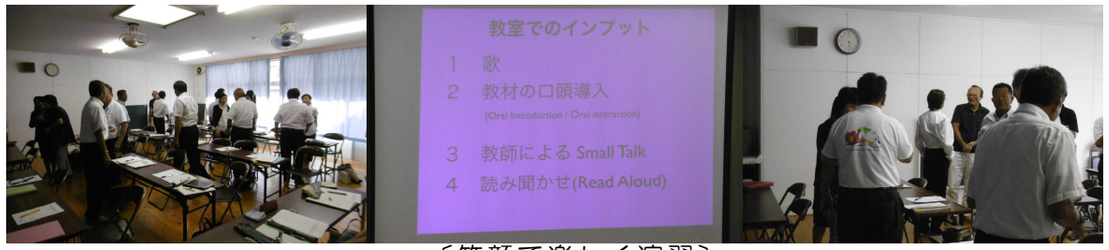
の３つの案について分かりやすく説明していただきました。それぞれの案にはメリット、デメリットがあります。本市として各校の実態（複式校が多い）を踏まえながら児童の学びの質の向上や教職員の活躍につながる年間計画や時間割編成の最適な在り方を検討していくいく必要があります。

後半は、長﨑 政浩 教授による「こどもたちと英語の授業を創る」と題して、先生の英語による“small talk”から始まり、教科化の前に考えておきたいこととして①ビジョン、②年齢に応じた指導、③シラバス(授業計画)、④評価、⑤教材、⑥ＰＬＣについて事例を織り交ぜて話してくれました。特に「外国語教育の良さを継承しつつ、プロの教師としての気概を持って（そろそろ言い訳できない）、小学校英語教育を創る（与えられるのではなく、自ら創りあげていく）」と熱く語ってくれました。特に「小学校英語の教育を創る」では、話を聴くだけでなく、隣同士、小グループで学ぶ楽しさや醍醐味を実感でる英語を使ってのアクティビティもあり、和気藹々と楽しく研修することができました。

～今後の予定～

第３回外国語教育コア・エリア推進会議（公開授業）
　〇期日：１０月２３日（月）５校時
　〇会場：清水小学校

〔長﨑教授の講演〕

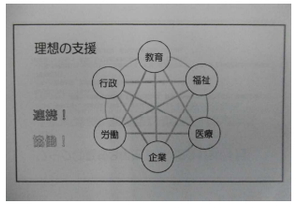


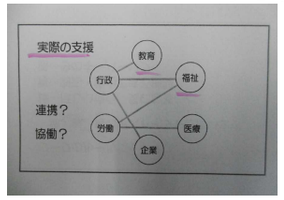
〔笑顔で楽しく演習〕

～あすなろネットワークの取組～

８月２９日第３回あすなろネットワークを開催しました。第２回に引き続き小笠原　悠さん（NPO法人若者就労支援センターつながるネット）をお招きし、「支援・関わりの連携について」と題して講話とグループワークを行いました。

はじめに「アイスブレイク」として「伝言ゲーム」（出題者の説明を聞いて絵を描く）を行いました。講話では、「最近の支援センターの活動として『自立していく力をどうつけていくか』を事例を挙げながら説明してくれました。また理想の支援体制（連携！協働！）が、実際は十分に機能していない状況にある。」とも話してくれました。





その後は３班に分かれて事例を基にグループワークを行いました。

「今日の目的・目標」として
　①担当者（組織）としてできること
　②部外者（別組織）としてできること
　③地域（全体）としてできること
　④その他

の４項目を班内で確認し、各自がイエロー（ほしい情報、気になること）、ブルー（対応・協力できる機関）、ピンク（今のキーパーソン）のポストイットに意見を書き、模造紙に貼りながら、どう取り組んでいくかを考えました。

〔小笠原さんの講話〕　〔伝言ゲーム〕

〔グループワーク〕↑

←〔まとめ〕

☆書籍・ＤＶＤの紹介Ⅰ☆　～ご利用をお待ちしています～

一日教研の講師・菊池省三先生の書籍を購入しました。

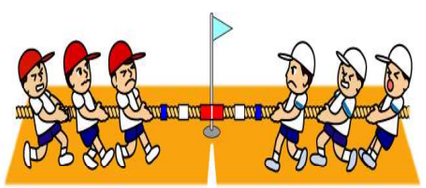
○「考え方や行動をプラスの方向に導く　価値語１００ハンドブック」
○「言葉で人間を育てる菊池道場流　成長の授業」
○「人間を育てる菊池道場流　叱る指導」
○「ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力豊かな子どもを育てる　家庭でできる５１のポイント」
○「ｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞの土壌を育む　菊池流学級づくり」

〔平和教材〕

○「空より高く」（ＣＤ絵本）
約束をしよう。わたしたちは3・11を決して忘れないと。
震災の直後、「あなたたちにできることは？」という園長さんの問いに、「歌がうたえる！」と小さなひとたちはこたえたそうです。それが放送局に送られた園児たちの歌声だったのです。
２０年以上愛されてきた歌が、いま写真絵本となって！

〔その他〕

○新教育課程ライブラリⅡVol.8
「実践・これからの道徳と外国語教育」



☆書籍・ＤＶＤの紹介Ⅱ☆
＝市民図書館から＝

今年度購入した下記平和教材(DVD)の貸し出しをしています。各校の平和学習等でご活用ください。

～野坂昭如戦争童話集～

○「ウミガメと少年」（DVDｱﾆﾒｰｼｮﾝ45分）
「時は１９４５年６月２３日の沖縄爆撃から終戦の８月１５日までのできごと。ウミガメは、地上での激しい爆撃を気にすることもなく、いつも通りいつもの場所に産卵にやって来ました。祖父母と一緒に逃れていた少年哲夫は、ある時祖父母が死んだことを知ります。一人になった哲夫は、ウミガメの卵を見つけます。哲夫は、卵を安全な場所へ移して、大事に育てていきますが…。」

○「焼跡の、お菓子の木」（DVDｱﾆﾒｰｼｮﾝ45分）
「なーんにもない焼跡で子どもたちが見つけた一本の、いい匂いのする不思議な木、葉を一枚食べてみると「うわっおいしい」空襲で亡くなったママと少年の熱い思いが育てたお菓子の木。大人たちは誰もこの木には気がつきません。」

○「ふたつの胡桃（くるみ）」（DVDｱﾆﾒｰｼｮﾝ45分）
「中西彩花はごく普通の小学生、飼い犬ライアンとの散歩の最中に、東京大空襲の３日前の世界にタイムスリップしてしまいます。行き場のない彩花とライアンを助けたのは同い年の少女友子でした。早く元の世界に戻れるようにと、対になった胡桃（くるみ）の鈴を一つ彩花にくれる友子。それは戦死したお父さんが作ってくれた物でした。しかし、その願いも叶わぬまま、彩花は運命の昭和２０年３月１０日を迎えるのです…。」

○「キクちゃんとオオカミ」（DVDｱﾆﾒｰｼｮﾝ45分）
「昭和２０年、満州。敗戦とともに日本人たちの退却が始まりました。日本へ帰る道のりで、幼いキクちゃんは病に侵されてしまいます。家族に置き去りにされ、弱り切ったキクちゃんを救ったのは、一匹のオオカミでした。オオカミの看病のおかげで元気になったキクちゃん。しかし、次第に食糧はなくなっていきます。オオカミは危険を承知で、人間の町へ連れて行くことにしたのですが…。」